07 障害児・者

現状と課題 - 横浜を取り巻く状況と課題 -

〇障害児・者への支援

・障害のある人が増加する中で、医療的ケア児・者や重症心身障害児・者など日常的な支援を必要とする人、発達障害のある人も増えています。個々のニーズは多様化しており、こうした人々の生活を支えるためには、支援に関する取組や体制の充実が重要です。

・障害のあるこどもたちが、安心して保育所等や学校に通うことができるよう、受入れ環境の拡充や通学の支援などが重要です。

〇「働きたい」ニーズに応える

・第４期障害者プラン策定に係るアンケート調査では20歳未満の約７割、20歳から40歳代の約５割が働きたいと回答しており、多様な働き方や障害者就労に対する理解の促進に取り組むことが重要です。

〇インクルーシブ※なまちづくり

・多様性に配慮した制度の推進、公共施設や設備のバリアフリー化の推進、インクルーシブスポーツの推進、デジタル技術を活用した体験機会の拡充など、様々な分野で総合的にインクルーシブなまちづくりを進めることが重要です。

※ 障害の有無、年齢、性別、国籍などに関わらず、多様な人々が互いを尊重し、共生する社会や取組

目指す姿 - ４年後、そして、更に将来にわたって目指すべき姿 -

・障害児・者やその家族への支援を行うと共に、ソフト・ハードの両面からインクルーシブなまちづくりを進め、誰もが安心して暮らせる環境が整っています。

・DX技術等の活用による体験機会・就労機会の拡充を通じて、自分らしさを発揮し、いきいきと生活ができています。

政策指標 -市民の皆様の横浜市での暮らしの意識を表す指標-

障害児･者にとって暮らしやすいまちだと思いますか

30.9%

障害児・者に対する支援充実に向けた取組に関連する主な個別分野別計画等

横浜市障害者プラン	よこはまわくわくプラン（横浜市子ども・子育て支援事業計画／横浜市こども計画）
横浜市教育振興基本計画	

【関連するSDGsの取組】

15 障害児・者支援

方向性

障害のある人が希望する場所で自分らしく安心して生活することができるよう、地域生活を支える様々な社会資源と連携しながら、社会を構成する一員としての多様な暮らしや就労を支える取組を推進します。

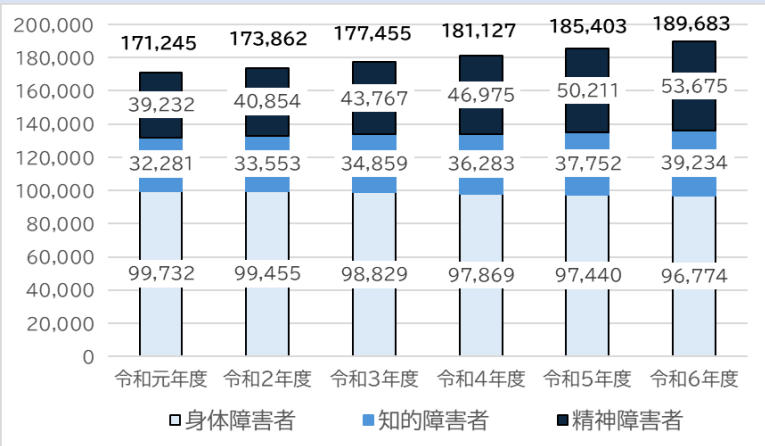
また、障害のあるこどもたちが将来自らの選択により自立生活を実現できるよう、個々の状況に応じた本人の主体性を獲得する力を引き出し、育てていく支援（エンパワメント）と合わせ、乳幼児期、学齢期、青年期、成人期を通じた切れ目のない支援を推進します。

指標

指標	現状	目標
グループホーム利用者数 ※【健康福祉局】	6,275人	7,000人
医療的ケア児の待機児童数※【こども青少年局】	0 人	0 人
福祉施設から一般就労への移行者数 ※【健康福祉局】	1,056人（R6時点）	1,200人
医ケア児・者等支援者養成数（養成研修修了者数累計）※【こども青少年局】	305人（R6時点）	540人

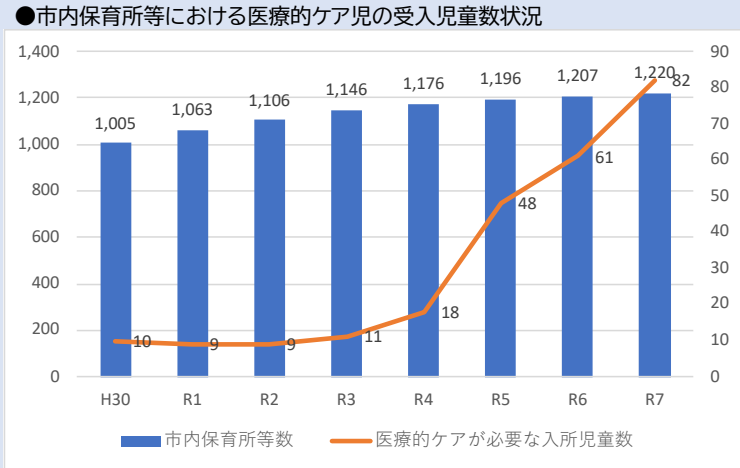
【関連データ等】

●障害者手帳の所持者数推移



【出典】健康福祉局

●市内保育所等における医療的ケア児の受入児童数状況



【出典】こども青少年局

●小柴自然公園インクルーシブ遊具広場の様子

【出典】みどり環境局

●医療的ケア児・者の保育やケアの様子

【出典】こども青少年局
健康福祉局

【障害のある人の働き方 ～一般就労と福祉的就労～】

障害のある人の働き方には、企業等で働く「一般就労」のほか、「福祉的就労」があります。福祉的就労は、福祉サービスを提供する事業所での作業等を通じて、収入を得る働き方です。　福祉事業所には様々な種別があり、作業内容は事業毎に異なります。福祉的就労を経て一般就労をする人もいれば、福祉的就労で働き続ける人もいます。

横浜市は地域生活を支える様々な社会資源と連携しながら障害のある人の多様な暮らしや就労を支える取り組みを推進していきます。